

子ども会（学習会）だより

MY SKY No.18

マイ・スカイ

1997年9月16日火曜日発行(毎週火曜日子まぐれ発行)

発行者

板野中学校

学習会

編集・文責：吉成正士

私思うんです。どうして日本には元号^{げんごう}なんていうものが多く使われるのでしょうか。本当に素朴な疑問なんです。国際化^{こくさいか}なんて言ってる割に、「明治・大正・昭和・平成」なんていう元号が多く使われています。よりインターナショナルな西暦^{せいれき}にすればいいのにと思うのです。それに、使う時々^{ときどき}によって元号と西暦を使い分けなければいけません。しまいにはごっちゃになって、今が平成7年やら平成9年やらわからなくなってきました。ややこしいやいうもんちやいまんがな。もうどないかならんかいなと、正月が来る度^{たび}に思いますわ。おかげで昔、年賀状作れたと思うたら、旧年の年号にしとって、えらい難儀^{なんぎ}しましたがな。せやから私、あんまり賢い^{かしこ}方でないみたいやし、西暦に統一しましてん。けど元号、つまり平成で聞かれると、はっきり答えられまへんねん。まあかしこ〜ないから、仕方ありまへんわな。せやけど、あんまり人前^{ひとまえ}では「かしこ〜ないから」とか「あほやから」言われへんから、偉そげ^{えら}〜に「(ちよと齧^かト〜で)僕はポリシーとして、国際化^{こくさいか}に対応した西暦を使ってるんだよ。ハハハハハ」なんて言うてますねん。あほらしいこっちゃ。ほんま、なんとならんかいななあ、ハア〜。

▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼

☆ 夏休みの学習会行事についてえ〜

夏休みに、学習会の行事として4つの大きな行事がありました。合計で6日間となり、全部参加した人には結構きつかったかもしれませんが、見方^{みかた}を変えればすごく充実^{じゅうじつ}した毎日だったともいえると思います。参加できなかった行事については、その行事に参加した仲間^{仲間}に聞くといいでしょうし、またまったく参加できなかった人についても同様^{どうよう}にいえると思います。その一つ一つについて少ししか記^{しる}すことができませんが、それでも理解してもらえればと思います。どうぞ読んでみてください。

①第2回部落解放徳島県学習会中学生集会《8月7日(木)徳島県青少年センター》

とにかく、「すごい子がいっぱいいる」の一言^{ひとこと}に尽き^つと思います。参加人数も250名を超え、同じ立場の仲間の多さに、驚き^{おどろ}や感動や喜び、頼もしさを感じたことと思います。おそらくこの中には、いろんな能力を秘めた子がたくさんいたと思います。実際、むちゃ

くちや発言できる子、むちゃくちや友だち作るのがうまい子、むちゃくちや^{きてん}機転のきく子などが、この会を盛り上げてくれました。もっともっと接する機会があると、より多くの子のより多くのすばらしい面が見えてくるでしょうね。でもそれは、それぞれの学校で頑張ってもらおうとして、この集会でできることは、やはり県内各所の仲間とつながることでしょう。今年なんかは、去年の集会の^{えいきょう}影響で頑張ってきた子が結構たくさんいたんですよ。知らないところの、知らなかった仲間の家庭の状況、学校の状況、そして今までに経験した^{くや}悔しい思いを初めて知り、共感し、共に立ち上がろうとすることで、今までになかった^{はんい れんたい いしき だんけつしん め ば}範囲で連帯意識や団結心が芽生えてきたんですよ。その輪を大きくすることも、一つの大きな目標だと思います。この集会をまとめた報告集を、今年もまとめる予定です。出来上がりを楽しみにしておいてくださいね。

②板中学習会バーベキュー一日研修会《8月9日(土)板野中学校中庭》

本当は、一泊で土柱の近くにある^{かんい ほよう}簡易保養センターに行く予定だったのですが、台風の影響で中止となり、^{きゅう}急きょ学校でバーベキュー一日研修となりました。

昼から会議室に入り、月末に行くリバティおおさかでガイドボランティアをしていただく木村美代子さんの^{お た}生い立ちから、部落問題を勉強しました。今の生活ではわからないような、昔のことを学ぶことから、^{せんじん くろう}先人の苦労や頑張りを知り、人間としての輝かしく^{ほこ}誇らしい生き方を確認できたように思います。

その後みんなでバーベキューの用意をし、保護者も^{まじ}交え、歌あり、^{おど}踊りあり(?)の楽しい酔っぱらいのひとつきを過ごしました。ちなみに、酔っぱらったのは先生だけです。誤解のないように。でも、生徒のみなさんもえらく楽しそうでしたよね。

③徳島県解放子ども会一泊研修会《8月18日(月)・19日(火)牟岐少年自然の家》

この研修会は私が^{しゅつちよう}出張で行けなかったもので、何も報告しようがないのですが、県内で参加のできる部落の小学生・中学生・高校生が集まり、共に交流していくというものです。校内だけでなく、県内の中学生だけでなく、校区内の小・中・高校生だけでもないことを考えると、すごくスケールの大きな研修会だということがわかってもらえると思います。でも、そんなスケールを感じながら、^{たて}縦(学年間)の^{れんけい}連携や^{よこ}横(同学年)の連携をしていくことを通して、いろんな人がいることを知り、将来に^{てんぼう}展望がもてるといいですよ。

④板中学習会県外視察・交流会《8月28日(木)・29日(金)大阪人権博物館、羽曳野中学校》

やはり夏の^{しゅうたいせい}集大成といった感じでしたよね。朝早くに中学校を出発したのですが、^{ねむ}眠い目をこすりながらバスの時間を過ごし、「リバティおおさか」に^{ひるまえ}昼前に着き、見学がてら

25日(木) 第3学年第2回全体学習(3年D組)

26日(金) 「同和教育・部落問題」勉強会(19:30～; 郡碩教育集会所 テーマ「解放の父・松本治一郎」について)

★ ☆☆ ★★★ ☆☆☆ ★★★★★ ☆☆☆

お知らせ

以前PTAの会で話をしていたとき、「同和教育の会に行けるなら行きたいと思うんだけど、いつあるのかわからない」と保護者の方に言われたことがありました。うれしいことです。結構他の町では、PTAや地域の方々も参加しているので、板野町もそうなればと思っていたのです。そこで、今年度予定している研究大会のお知らせを、しばらくの間してみようと思いますので、行ける方、興味ある方、ぜひ一緒に参加してみましょう！きっと何かが得られると思いますよ！

詳しくは、中学校の阿部または吉成までご連絡ください。

- 10月14日(火) 板野町同和教育研究大会「小学校部会」(13:30～; 板野東・西・南各小学校)
- 10月15日(水) 第4回板野中学校同和教育研究大会兼板野町同和教育研究大会「中学校部会」(13:30～)
- 10月16日(木)・17日(金) 第48回徳島県同和教育研究大会(文化センター他)
- 10月18日(土)～20日(月) 部落解放第31回全国集会(アスティ徳島他)
- 10月22日(水) 第27回中学校同和教育研究大会(相生中学校)
- 10月24日(金) 文部省指定同和教育研究大会(三好中学校)
- 11月6日(木) 第41回板野郡同和教育研究大会(吉野町)
- 11月29日(土)～12月1日(月) 第49回全国同和教育研究大会(熊本県)



板野中学校学習会1日研修(バーベQ大会)(97. 8. 9)

同和教育講演会録

『私の歩んできた道②』

一年があつたという間に過ぎ去っていききました。

ちょうどその時、松山の部隊で射撃大会が行われました。私はその大会でよい成績を出すことができました。そのことを、上司の方がみんなの前で「模範である」とほめてくれました。その当時の私にとって、短い言葉ではありましたが、ほめられた言葉が何よりも私の支えとなりました。

また一年、練習を積み重ねました。いろんな大会で、松山の部隊の代表選手に選ばれて出て行くことが多くなっていきました。

そしてその年、自衛隊の全国大会が開かれるようになりました。松山部隊で出場する選手の選考会で、私は松山の部隊代表選手に選ばれ、自衛隊での射撃の全国大会に選手として参加するようになりました。大会会場となったのは静岡県は富士山のふもとで、りっぱな射撃場が作られておりました。そこで開かれた自衛隊の全国大会で、私は10番以内に入ることができました。そのことがきっかけとなり、東京の体育学校から「オリンピック要員として」という通達で松山の部隊に届きま

した。そのことを上司の方から聞かされたとき、

「あの嫌な先輩から逃げる事ができる。私の生まれた故郷を知ってしまったこの松山の部隊から離れることができる」

私にとって、そのことが何よりもうれしかった。

それからしばらくして松山を離れ、私は東京に向かいました。東京は私にとって初めてでした。人また人、そういった群衆の中で、身寄りのない私にとっては、不安な気持ちで胸一杯になりました。しかし、

「私の生まれた故郷を知る者は、この東京には、この体育学校にはもう誰もいない」

そう思うと、何よりもホッとしたしました。

全国から選ばれた選手が一堂に集まり、オリンピック目指して合宿が始まりました。私は特訓に特訓を重ねました。そして、

「今度は自衛隊一になつてやろう」

新たに目標をそこに定めました。日曜日まで、友は外出をして酒を飲んで楽しんでる時間、私は居残りをして一人で練習をしました。祭日もすべて練習に練習を重ねました。

「差別に打ち勝つには、人に負けない、

何か強いものを持つしかない」

と、そう思っていました。ですからその練習のつらさには、耐えていくだけの自信を身につけておりました。

そして一年。自衛隊での全国大会が

また開かれました。私もその全国大会に、二回目の参加として臨みました。

大会会場は、一回目と同じ静岡県の大会会場でした。自分の出番が近づくとつれ、胸が躍り、足が震え、手が震え始めました。私は神に祈りました。

「神様、どうか私の射撃をしている30分間、手の震えを止めてください」

必死になつて祈ることをしましたが、いっこうに手の震えは止まりませんでした。銃を取り射線についたときでした。自分のあがつている精神状態をなんとか押さえようと、私はふと横の選手が気になり、銃を持っているその手を見ました。その手の震えが、私に伝わってきました。さらにその横の選手も手が震えておりました。私はこの時、何となくホッとするのを感じました。

「この大会で手が震えているのは私だけではない。私の横の選手も、さらにその横の選手も、またこの大会に参加しているすべての選手が、私と同じように胸が高鳴り、足が震え、手が震えている。ならば条件は同じだ。五分と五分だ」

私はそう思いました。

「それならば、私は今日の大会のために、ひとときも時間をむだにしなかった。そういった面では私の方が有利なはずだ」

そのことを自分に言い聞かせました。一発初弾を撃つたとき、手の震えはもう気になつていませんでした。練習をしたとおり、一発一発精魂込めて撃ちました。大会が終わったとき、私は優勝をしておりました。

その大会を終えてしばらくしたとき、東京で全日本ライフル協会が主催をする世界選手権選考会の大会が開かれ、自衛隊からも数名選ばれてその大会に臨みました。その大会は、それまで世界選手権に参加したことのある選手や、オリンピック経験のあるベテラン選手ばかりの大会でした。私はその大会で、運よく外国に行く世界選手権の選手に選ばれました。

「やった。ついにやった。俺は勝った」この数年間耐えに耐えてきた自分を、自分でほめてやりたかった。なによりもうれしかったことは、

「これでもう差別されないですむ」

と思ったことでした……

つづく